

「怒りから赦し」 ～どうやればゆるせるのか？～

詩篇 37：1-8

あなたは誰かに対して怒りを感じたとき、それをどのように処理していますか？自分が正しいとして相手を攻めたり、仕返しをしたりする人もいます。しかしそのようなことをして人生を台無しにしてしまった人もいます。あなたはそのような経験はありませんか？どのような場合であっても仕返しをしてしまったら元も子もありません。『さばいてはいけません。さばかれないためです。』と聖書にあるように、私たちが相手を裁くなら自分も同じように裁かれます。ですから仕返しはなにひとつ良いことはありません。では、どのようにこのような感情を処理していったら良いのでしょうか？詩篇37に『憤りを捨てよ・・・それはただ悪への道だ』とあります。私たちには怒りという感情があり、感情自体は良いものと語られました。しかしⅠペテロ4：26にも『日が暮れるまで憤ってはいけません』とあるように、怒った後に憤っているのはいけないといわれています。それは私たちが暗闇の中で悪い声を聞かないためです。

今日は怒りシリーズの集大成で、どうすればゆるせるのかを学んでいきます。今までのメッセージを少し振り返ると、怒るときはそれを悲観や憤りをもっていくのではなく、悲しみをもっていくことが大事だと語られました。その悲しみを神様の前に素直に出し慰めを受けるためでした。また、怒りが憤りになるのは羞恥心がそうさせるとも語られました。それは原罪のときに生まれた恥と悲しみがそうさせるのでした。自分の心に蓋をして憤ることで自分を防御するためです。しかし憤りが蓄えられると罪を犯してしまうことを私たちは知りました。だからこそ私たちは憤ったままではなく赦すということが大切と神様は語られています。ローマ12：14-21にあるみことばをきれいに読んでください。あなたは今まで語られたことを受けて羞恥心があなたの心に憤る気持ちにさせていることが分かりました。また、その羞恥心は神様が造ったものではなく原罪から生まれたということも分かりました。それが分かった上で感情と向き合い戦うことがすばらしいのです。ですから今日、怒ったときにどうするかを学んでいきましょう。

今日は創世記の38章にあるユダの話をみていきます。彼ら兄弟の間には争いがありました。なぜなら彼らの父ヤコブが子どもたちに偏った愛情を示していたからです。ヤコブが愛したのはヨセフとベニヤミンでした。ですからこのヨセフは夢の話をして兄弟に憎まれエジプトに売られてしまいます。この時、殺そうという兄弟がいた中で売ることを決断したのがユダです。しかし、この38章にある出来事を通してユダは変わります。父ヤコブがヨセフが死んだと聞いて悲しんでいたその悲しみが分かり、やもめとしてぞんざいに扱ったことで嫁にだまされますが、そこから自分の行いが間違っていたことが分かります。そしてユダは後に神の礼拝を守り、キリストの系図につなげていく者となります。この時、イスラエルに食物がなくなり、ヨセフが大臣をしているエジプトに助けを求めます。しかし初めユダたちはヨセフによって疑いをかけられ牢に入れられます。そこで兄弟はヨセフにした罪を悔い改めます。そして再びエジプトに行く際にベニヤミンを連れて行かなければいけなくなったときユダは自分が犠牲になり命がけで守ることを父に約束しました。このようにユダは神様のチャレンジの中、自分は間違っていたと気付くことができました。そして、ヨセフもエジプトに売られてから人生が変わります。傲慢だったことを悔い改めて売られた先で正しく振舞うことができました。これこそ神様の裁きです。私たちの信じている神様は呪いを与え罰で恐れさせることで信じさせる神様ではありません。私たちの神様は罪を犯した人は失敗をただで罪を犯していない人と同じように愛しています。だからこそ、その人の人生が正しくなるために、生かされるために戒めを与えます。私たちが心から悔い改めることで神様は赦し報いてくださいます。もし一人が悔い改めるなら周り全てが救われる恵みがあります。ですから私たちは日々なぜだか分からないほど、わだかまりがあって会いたくない人ほどよく遭遇しますが、これは神様があなたのため、そして相手のために与えてくださっている時です。神様はあなたが相手を赦したときあなたの人生を変えて幸せにするだけでなく、あなたに罪を犯していた人も改めさせて悪かったというチャンスを与えてくださっているのです。

では、あなたの目の前で失敗、嫌な事が起こったときあなたはどうしますか？何でこんな目に！と腹を立てるのでしょうか、それとも相手がいるならその相手を赦せないと思うのでしょうか。そんな時はまず自分の心を神様に向けましょう。神様は全てをご存知で、あなたを何とかしようとされます。あなたはなぜそのような道を歩むことになってしまったのでしょうか。それは、今まで生きてきた道が自分で正しなかったことを正しくできずぐちゃぐちゃした暗い荒野の道になってしまっていたからです。だからつまりいて転んでしまっていたのです。しかし今日、もし私たちがその道をまっすぐに戻すことができるなら、あなたの道は明るい道になります。ですから、ゆるすために私たちがしていくこと。1 **悪を回らない** 日が暮れるまで怒っていると私たちは悪を回ってしまいます。詩篇1に正しく生きる人の道と悪者・あざける者の道について書かれています。あざける者の道は悪を計らう道です。そのような人は答えを探すことができません。聖書には全ての人が良いと思うことを図り行えとありますが、あなたは悪を回っていませんか？もしかするとあなたのうちにはまだ相手を赦せず仕返しをしてやるという思いが残っているかもしれません。しかしこれからは、自分も相手を傷つけていたことに気付きそれを心に留め、悪の道から向きを変えましょう。もしあのときユダが命がけで兄弟を守ると言わなかったら、ヤコブはベニヤミンをエジプトには連れて行かせず、イスラエルは飢饉に遭っていたでしょう。また、ヨセフが最後まで兄弟に仕返しをしようとしていたらどうだったでしょうか。しかしヨセフは兄弟を赦そうと努力し、その結果、最後には家族全員を前に自分がヨセフだと告白でき、兄弟と和解し、家族は飢饉から逃れ平和に暮らすことができるようになりました。私たちもできれば嫌な人には会いたくはありません。しかしクリスチャンはここを頑張らなければいけません。2 **赦しは自分へのプレゼント** 人間関係の中で罪が生まれてきますが、これはあなただけが罪を犯したのではなく、相手だけが罪を犯したのでもありません。人との間にわだかまりや争いがあるとき、どちらかだけが良くてどちらかだけが悪いということではなく、お互いが悪いのです。それが生まれたきっかけはほんの少しのコミュニケーション不足、勘違いだけだったかもしれません。それがいつの間にかあなたの罪とあなたの隣人の罪とがこんがらがってどうにもならない状況になることもあるのです。そしてそれを解くには両方をほどく必要があります。つまり、あなたはあなた自身と隣の人の罪を神様の元に持っていく必要があるのです。私たちには赦される特権と赦す特権があると前にメッセージしましたが、赦し合って初めてあなたの中にあつた罪が赦されるのです。そして赦されて癒されます。癒されるためには相手が必要なのです。ヨセフはエジプトで大臣となったのですから家族に報復に行くことも自慢することもできました。しかし彼の中には家族と会いたくない気持ちがありました。そんな彼に神様は飢饉を起こしてまで彼らに会うチャンスを与えます。あなたもヨセフと一緒に。私たちは生きていけば必ずそのような場面に出くわします。そのチャンスを逃してはいけません。

それはあなたのための神様からのプレゼントだからです。ですからエペソ4：25-29にあるようにしなければいけません。私たちは悪いことばを口に出さないのと同時に相手を赦す行動を口ばを使わなければいけません。前回、和解のことばを神様から委ねられていることを語りました。ですからその行動をとる必要があります。そのことであなたの前に赦しと癒しが訪れます。神様があなたに与えている権利と特権を使わない手はありません。**3 かかわる** この関わりが大事です。私たちは嫌な人とは距離を置き、なるべく関わらないようにしてしまいます。しかしヨセフは関わり向き合いました。ですから私達も神様と向き合うこと、自分の中にあるわだかまりと向き合うことをやめてはいけません。悪魔は和解と回復と赦しが大好きです。悪魔はみんなの中をわだかまりができるように長い時間をかけてだましてきます。あなたが悪くなって人生が無駄になるように仕掛けてきます。だからこそ私たちは関わり向き合わなければいけません。そしてその時には、間に入ってくれる中立な人がいることが大事です。神様は向き合おうとする時そういった人を必ず与えてくださいます。逃げたら終わりですが、神様は逃がしません。ですからどうして??と思う前に向き合いましょう。またヘブル12：11-17にあるように、私達が向き合うときには周りに人がいます。私たちは罪を憎んで人に優しくしなければいけません。教会は家族ですから自分だけがよければ良いということはありません。あなたが祝福されれば周りも祝福され、あなたが罪を犯せば周りの人はダメになります。私たちはみんなと一緒に良くならなければいけません。家族の一人も傷ついてはいけません。ですから私たちは北風と太陽の北風のように裁いて風を吹きつけるようであってはいけません。そんなことをすると相手は変わらないどころか余計にガードを硬くしてしまいます。そうではなく、太陽のように愛をもって自分自身が罪人であることを理解し、その人と向き合うことが大事です。そうすることで絡まった糸は解れてまっすぐにつながります。そこで、私たちは共に祈り、共に赦し、共に癒される関係をもう一度回復し、決して切れない三つ撚りの糸にしてなければいけません。それが感情を制御し怒りに心を惑わされず、悲しみから慰めを受ける人の道なのです。

神様はこうして感情について2ヶ月にわたって語られました。これだけあなたの人生を変えようとしておられるのです。また、このことを通して私達には隣人が必要であることも気付かされました。みんなと一緒に祝福されることを神様は望んでおられます。ですから、これからも神様を信じて逃げずに向き合いましょう。あなたが向き合わなければあなたの周りは救われません。魔がさす人生から向きを変え、神様に導かれる人生、神様と共に歩む人生を歩みましょう。(要約者：平澤 瞳)